

平成十五年度 仏教文化研究所活動報告

〔第一回運営委員会〕

日時 平成十五年四月五日（土）午後四時～

場所 一号館二階 第二会議室

内容 ○平成十五年度予算の確認

○平成十五年度公開講演会開催案承認

○平成十五年度所員の役割分担承認

○平成十五年度「研究会」開催日程の確認

○科学研究費申請の件——木村清孝主任中心に申請中であることを確認

○平成十六年度紀要第九号の発行日等の確認

○平成十六年度活動について——総持学園開設八十周年記念の行事としての核になるシンポジウム等を検討

○研究員の委嘱の更新承認

佐藤達全氏

参加者 高崎直道所長、木村清孝主任、大三輪龍彦所員、永田勝久所員、岩橋春樹所員、石田千尋所員、尾崎正善所員、小林恭治所員、関根 透所員、矢島道彦所員

〔第二回運営委員会〕

日時 平成十五年十二月十一日（木）午後四時三十分～

場所 六号館二階 共同研究室

内容 ○仏教文化研究所人事の件検討

参加者 高崎直道所長、木村清孝主任、大三輪龍彦所員、岩橋春樹所員、石田千尋所員

〔第三回運営委員会〕

日時 平成十六年二月六日（金）午後四時三十分～

場所 一号館二階 第三会議室

内容 ○平成十五年度仏教文化研究所活動の確認

○仏教文化研究所主任の交替―平成十六年度より矢島道彦所員が主任に選出承認

○平成十六年度仏教文化研究所予算（案）の説明

○仏教文化研究所組織の整備等の検討

○平成十六年度活動について―総持学園開設八十周年記念の行事としてのシンポジウム（特別講演等）の日程等の検討

○平成十六年度研究員の委嘱の更新・承認

佐藤達全氏 木村清孝氏 計良隆世氏

参加者 高崎直道所長、木村清孝主任、永田勝久所員、尾崎正善所員、小林恭治所員、関根透所員

〔第四回運営委員会〕

日時 平成十六年三月三日（水）午後四時～

場所 一号館二階 第二会議室

内容 ○平成十六年度仏教文化研究所運営方針の検討

参加者 高崎直道所長、大三輪龍彦所員、永田勝久所員、河野真知郎所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、矢島道彦所員、小林恭治所員、尾崎正善所員

〔公開講演会〕

日時 平成十五年六月十四日（土）午後二時～

場所 鶴見大学会館地下一階メインホール

講師 菅原伸郎氏（前朝日新聞社「こころ」編集長）

演題 「恐れることはない」

講演内容は本紀要に掲載

〔第一回研究会〕

日時 平成十五年十一月二十七日（木）午後四時三十分～

場所 一号館二階 第二会議室

発表者・題目 納富常天顧問「江戸末期における總持寺の実情」

文化三年（一八〇六）の火災と勧化などによる再建、および安政六年（一八五九）の總持寺を中心に、江戸末期における總持寺の実情について発表した。文化三年の火災は天正十八年（一五九〇）、明治三十一年（一

八九六」と同様、主な諸堂舎の殆どを焼失した。その再建復興は全国末寺からの勧化によらなければならなかったが、勧化の許可申請と再建成就のためのいろいろな運動、勧化金の取扱いの問題、関三刹（総寧寺・竜穩寺・大中寺）との関係、再建費用などについて述べたが、これについては本紀要に「江戸末期における總持寺の実情（一）——文化三年の火災と再建を中心として——」と題して掲載した。

また安政六年の總持寺については、前田藩寺社奉行に提出した「諸般書上」にもとづき(1)諸堂舎軒数(2)總持寺定詰人別(3)年分収納(4)年分出方(5)収支などについて説明した。これは機会をみて発表する予定である。

参加者 木村清孝主任、岩橋春樹所員、尾崎正善所員、小林恭治所員、関根 透所員、矢島道彦所員

〔第二回研究会〕

日 時 平成十五年十一月二十七日（木）午後四時三十分

場 所 六号館二階 共同研究室

発表者・題目 大三輪龍彦講師「光明三昧法要について」

光明真言を主体とした法会である光明三昧を浄光明寺の開創七五〇年慶讃法要のビデオを使って解説した。内容は奠供（声明）、唱礼（金剛界禮懺）、光明真言、光明真言伽陀、廻向伽陀、である。光明三昧は真言宗でもほとんど執行されることなく、律宗系の寺院にのみ伝わる特殊な法会である。

報告・内容

木村清孝主任「ダライ・ラマ法王を囲む〈智と実践〉座談会」

木村主任が代表を務める「〈智と実践〉を考えるフォーラム」は、真実の智慧と正しい実践の統合・具現を目指して、従来の学問領域の枠組を越え、様々な分野の意欲的な人々と連携して多難な現代を克服し、明るい未

来を開くために生まれた組織である。チベット仏教の指導者ダライ・ラマ法王の来日を機に、このフォーラムの中核的なメンバーと法王との座談会が、諸方面の協力を得て、十一月五日、奈良ホテルにおいて実現した。議論は約一時間半にわたって行われ、科学的知識と智慧との関係、現実の諸問題に宗教者はいかに関わるべきかなど、多方面に及んだ。フォーラムにとっては、今後の展望を切り開く上で極めて有意義であり、また法王ご自身は「これほど親しく充実した討論ができたことは、日本においては初めてであった」ともらされるなど、満足された様子であった、という。木村主任は最後に、「本研究所所員の先生方のご協力・ご参加を得て、フォーラムとして再びこのような機会をもちたい」と述べた。

参加者 高崎直道所長、木村清孝主任、岩崎春樹所員、尾崎正善所員、小林恭治所員、矢島道彦所員、

納富常天顧問

研究所概要

〔所在地〕 〒二三〇八五〇一 横浜市鶴見区鶴見二一―三 鶴見大学内

TEL 〇四五―五八一―一〇〇一 FAX 〇四五―五七四―〇二三五

(担当事務部：文学部事務部庶務課)

〔所長〕 高崎 直道 鶴見大学学長(印度哲学)

〔主任〕 矢島 道彦 短期大学部教授(宗教学)

〔所員〕 大三輪 龍彦 文学部教授(日本史)

永田 勝久 文学部教授(化学)

河野 真知郎 文学部教授(文化人類学・考古学)

石田 千尋 文学部教授(美術史)

岩橋 春樹 文学部教授(美学・美術史)

小林 恭治 文学部助教授(日本語)

尾崎 正善 文学部講師(宗教学)

関根 透 文学部教授(倫理学)

〔研究員〕 木村 清孝

佐藤 達全

計良 隆世

〔顧問〕 納富 常天 (大本山總持寺宝物殿館長)

鶴見大学仏教文化研究所規程

（設置）

第一条 鶴見大学に、鶴見大学仏教文化研究所（以下「研究所」という。）を置く。

（目的）

第二条 研究所は、鶴見大学の建学の精神に則り、日本における仏教文化を中心に、広く仏教と文化に関する研究を推進し、学術の発展に寄与することを目的とする。

（研究内容等）

第三条 研究所は、前条の目的を達成するために次のことを行なう。

- 一 宗教学等の教授内容としての諸宗教の比較、仏教教理、曹洞宗学（特に總持寺教学）及び日本文化に及ぼした仏教の研究などの基本的研究
- 二 鶴見大学及び鶴見大学短期大学部における建学の精神の具現化及びその方法等の研究
- 三 鶴見大学大学院文学研究科との共同研究及び他の研究機関との学際的研究
- 四 研究会、講演会及び公開講座等の開催
- 五 所員の調査及び研究の成果並びに共同研究の成果、講演等の発表のための紀要類の刊行
- 六 その他研究所の目的を達成するために必要と認める研究等

（研究部門）

第四条 研究所に、次の2研究部門を置く。

一 仏教学研究部門

二 仏教教育研究部門

(所長)

第五条 研究所の所長は、鶴見大学学長の併任とする。

(所員)

第六条 研究所の教員は、専任のほか、鶴見大学及び鶴見大学短期大学部の専任教員の中から所長が委嘱する。

二 研究所の職員（教員を除く。以下この項において同じ。）は、専任のほか、鶴見大学の専任の職員の中から所長が委嘱する。

(研究員)

第七条 研究員は、鶴見大学及び鶴見大学短期大学部の専任教員以外の者から、所長が委嘱する。

二 研究員の任期は一年とし、更新することができる。

(顧問)

第八条 研究所に、必要な助言を与え事業の円滑な運営を図るため、若干人の顧問を置く。

(運営委員会)

第九条 研究所に、第三条に定める研究内容等の企画、運営のため、運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長及び所長が委嘱する運営委員をもって構成する。

三 運営委員の任期は二年とし、更新することができる。

(経費)

第一〇条 研究所の経費は、鶴見大学の年間研究費予算その他をもってこれに充てる。
(規程の改廃)

第十一条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、行なうものとする。

附 則

この規程は、平成七年四月一日から施行する。

平成十一年四月一日一部改正

仏教文化研究所 購入資料 二〇〇二年

巖島信仰事典	神仏信仰事典シリーズ八	戎光祥出版	一冊
祇園信仰事典	神仏信仰事典シリーズ十	戎光祥出版	一冊
禪學大系		国書刊行会	全八卷
禪門抄物叢刊		汲古書院	全十五卷
弘法大師諸弟子全集		大学堂書店	全三卷
永平正法眼藏菟書大成	続輯一〜十	大修館書店	十冊
BDK English Tripitaka 29-2・30-2, 76-3・4・5・6・7			二冊
織田佛教大辞典	補訂縮刷版	大藏出版	全一卷
仏教美術事典		東京書籍	全一卷
漢訳対照梵和大辞典	増補改訂版	講談社	全一卷
道元禅師全集	原文対照現代語訳一	春秋社	一冊
密教仏像図典		人文書院	全一卷
新編大藏全咒		喜豐出版社	全十八卷